

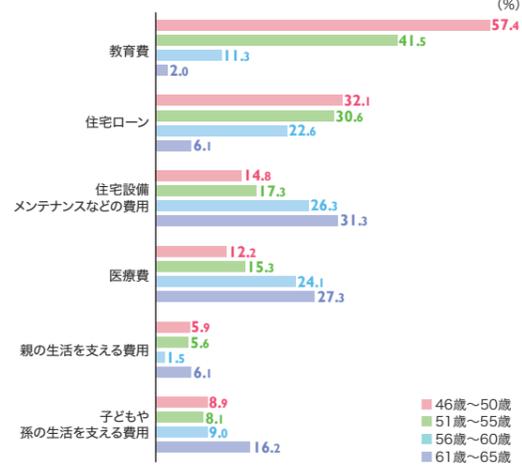
自分の暮らし不安

10年後の家計、不安要素がいっぱいなのに 半数以上が、家計の見直しをしていない

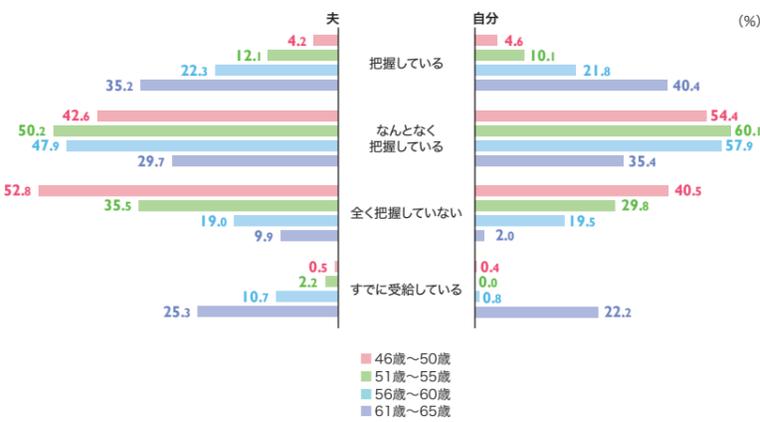
教育費の負担は50代後半になるとぐっと少なくなるが、その代わりに、収入が減る、住宅のリフォームや修繕費、医療費の負担が多くなるといった不安を抱えている。公的年金額は「ねんきん定期便」が発行されるようになり、半数以上が把握しているが、経済情勢次第で減額されるのではないかと不安がつきまとう。

将来のマネープランについて、考えたことがあるAR50は半数程度。真剣に考え始めるのは、50代後半が71.4%、60代前半が80.8%とGrace Ageに入ってからだが、具体的な家計の見直しはどの世代も「何もしていない」が半数を超え、思考停止に陥っている様子。

現在、負担が大きい費目



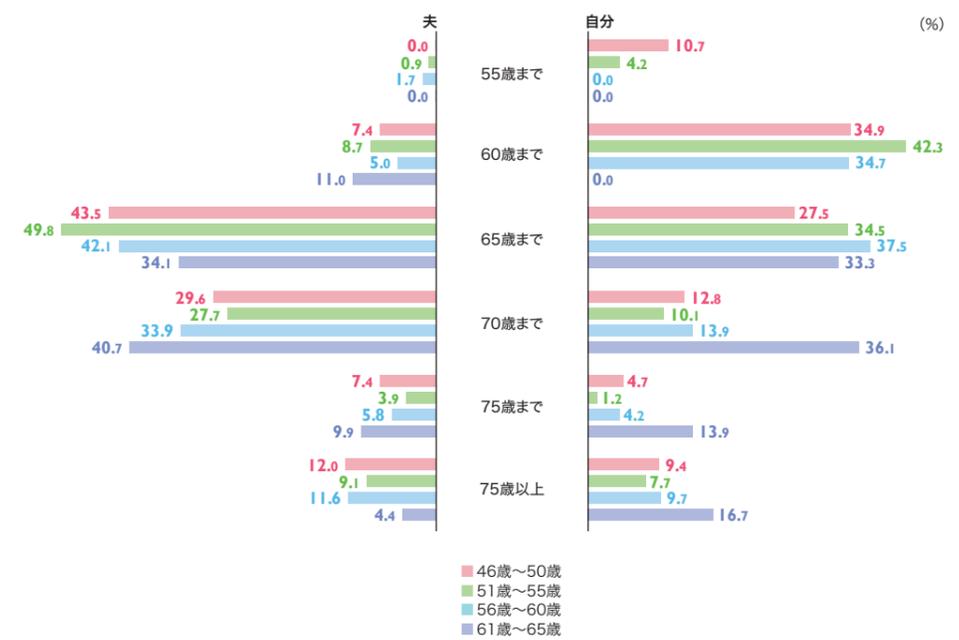
夫の年金額、自分の年金額



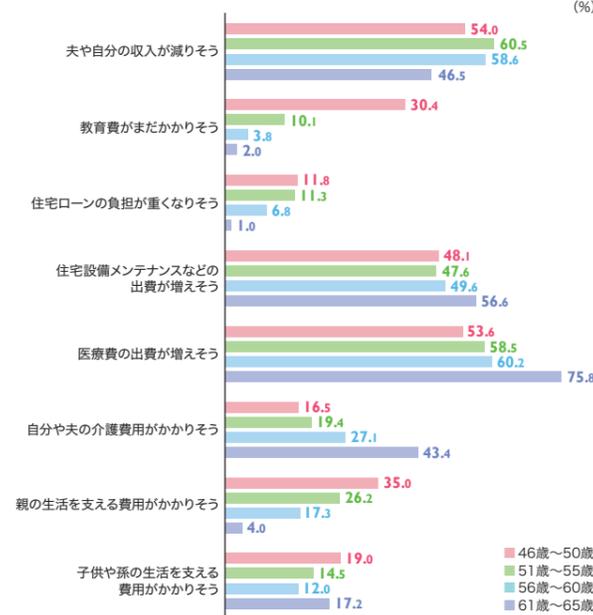
年金受給開始まではとにかく働く さらに夫には70歳まで働いてほしい

何歳まで働くかを聞いたところ、現在仕事をしている女性は60歳までと65歳までが3割～4割ずつ程度。60代前半になると、70歳まで働きたいが36.1%と元気いっぱい。夫には、定年後の雇用延長で65歳まで働いてほしいが4割台で、70歳までも3割前後と少なくない。

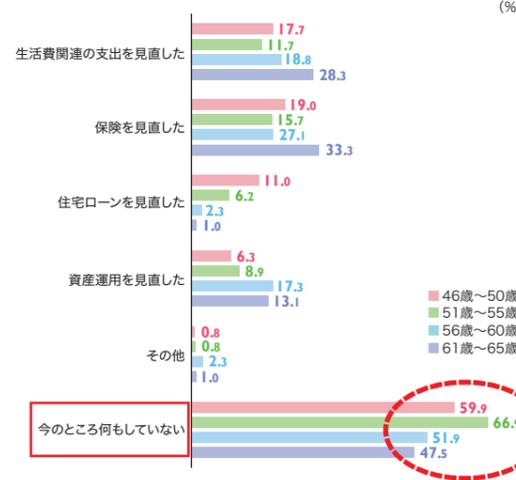
仕事は何歳まで続けますか



今後10年の家計で心配なこと



家計の見直し



60代になったら 少しは楽しみたい でも現実には？

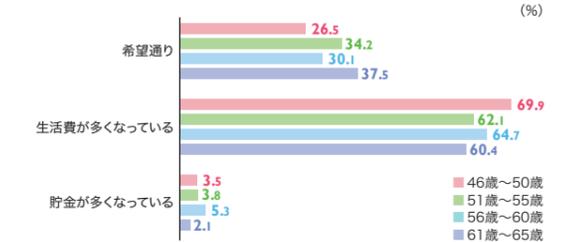
働けるうちは働いてとにかく貯金。貯金よりも生活や趣味のウェイトが少しずつ増えてくるのは、60代に入ってから。楽しみたいことは、旅行が圧倒的。

とはいえ、これはあくまでも理想で、実際には「生活費」に追われそうという現実的な予想が6割以上。

10年後の家計配分を予測してください



実際にはどうなっていそう？



【調査概要】
 調査期間 2016年10/26～10/31
 調査対象 読者女性組織「リビングパートナー」へのWEB調査
 集計数 46歳～50歳=237、51歳～55歳=248
 56歳～60歳=133、61歳～65歳=99
 ※各データは少数点以下第2位を四捨五入したため、合計が100%にならないことがある

3人の主婦へインタビュー 「10年後の暮らし、どうなっていそうですか？」

総合的に人生設計を相談できる窓口がほしい

娘の就職が決まったら、駅近のマンションに住み替えたい。子育てを優先して、広い公園と学校が近いところに戸建てを買ったので、今は、駅から歩いて20分。娘が就職したら、通勤が大変で心配。戸建てはセキュリティや庭の手入れも面倒、マンションの方が気楽。教育費がかからなくなる分どうしようとか、リタイア後のことまでは、考えてない。今は住み替えのことで頭がいっぱい。

夫も自分も65歳までは働く。老後のための貯金もコツコツはしてきたが教育費の捻出もあって、あまり余裕はない。だから65歳まではとにかく働き続ける。でも働けるのはあと10年しかない。

年金額は定期便でおおよその金額は把握しているけど、数年前に比べて10万から20万円程度減っている気がする。今後も減るのではないかと不安。

貯金は普通の定期預金。メインバンクからはいろいろ投資などのお知らせはくるがスルー。知識がないし、興味がわからない。マネープランの相談や投資は貯金額が多い人がするもの。自分たちの場合は、まずは元を増やすことから。今は親の介護で働けないけど、近いうちに働きたい。

マンションを買ったのが30代。築30年目からの第2次大規模修繕が10年後くらい、60代半ばでやってくる。計画に基いて積立金を払っているが、他のマンションで、想定外の多額の負担が発生したケースもよく耳にする。想定外費用の発生が心配。

保険の見直しの必要性は感じてないわけではないけど、今加入している保険が複雑すぎてお手上げ。保障内容もはっきり分からない。複数の保険商品を紹介してくれる無料相談会も気になって目をとめるものの、どうして中立でビジネスが成り立つのか分からないし、セールスされるのかもと思ってしまう。今後の医療費も心配だけど、がん保険は40代で入るものでは？50代からでは保険料が高ただけだと思う。

メインバンクでの個別相談は、貯金が3000万円、4000万円ある人じゃないとダメだろうなと躊躇してしまうけど、将来のマネープラン、どこかに相談はしてみたい。私たち世代向けの総合的な設計を相談できる、個別相談ではなく集団で聞けるような機会があれば。

How's View

家計管理から住宅、年金、資産管理まで人生設計は総合的に相談したい

- ◆マネープランは苦手意識が強い上に、セールスされるかも…貯蓄も少ないのに相談にいけない…など、ただただ節約、貯金しかない、と考えがち。
- ◆ファーストステップとして、個人の資産情報を公開しなくても済む家計管理徹底指南、保険など支出の見直し、自分で作る年金(確定拠出型年金)、住み替えや再就職など、AR50期から知って行動に移すべき家計ノウハウを総合的に学べる場が求められている。



Yさん/53歳
(夫55歳 長男22歳・
長女18歳)



Wさん/50歳
(夫51歳 長男28歳・
長女24歳)



Oさん/54歳
(夫58歳 長女22歳)